

花咲翁 はなさかじいさん

枯れ木に花を咲かせましょう。

日本に古くから伝わる美しき死と再生の物語



脚本・演出：くすのき燕 / 音楽：吟遊打人 / 美術：吉澤亜由美 / 大道具製作：笛師九兵衛(葦笛工房)

想像力

想像力は、人への思いやりや科学する事の元となる力です。しかし、この素晴らしい力も使わなければ伸びてはいきません。演劇や人形劇は、楽しさの中で想像力を伸ばしていきます。

人形の出てこない人形劇

扇と座布団だけで形作られた犬が、人形遣いの手によって生命を与えられます。

人形遣いの手がその扇から離れると、観客は犬が死んだのだと感じます。扇は色を変え、木の葉、桜へと新たな命を宿していきます。古(いにしえ)の死と再生の物語が、観客の想像力で現代に生き返ります。

一人二役の仮面劇

いい翁と悪い翁。いいだけの人や悪いだけの人があるわけではありません。民話はこのような形で、人間の心の両面をイメージとして提示してくれているのです。

本作品の中では、一人の役者が面を付け替える事で、いい翁さんと欲深の翁さんを演じ分けます。

民話の持つ生きる智慧を、演劇の力で伝えます。

和楽器の生演奏

音楽だけでなく、効果音も含めた全ての音を和楽器が奏でます。生だからこそ伝わる音があり、観客の感性に直接訴えかけます。